

# 常照

第810号

## 梅雨とか慈雨とか

オホーツク海の冷たい空気と太平洋の暖かい空気がぶつかって上昇気流が発生し、発生した雲が雨をたくさん降らせるそう。これを梅雨前線と呼ぶそうであります。

この前線の停滞による長雨が梅雨なのだそうです。ちなみに梅雨前線は北海道までのびてくることがないらしく、昔から北海道には梅雨がないうわいといわれています。と言われても北海道も最近では梅雨が

るみたいだねと仰る方もいます。それがひどくなりますと豪雨になりまして、豪雨による災害は毎年世界規模で発生しています。

かたや恵みの雨なんて呼び方もあります。万物を潤し育てる雨は慈雨(じう)なんて呼ばれています。量の多少やタイミングによって雨は厄介な雨になり恵みの雨にもなります。

## 一水四見(いっすいしけん)

仏教用語に一水四見という言葉があります。ここに池や河など水があります。私たち人間はこの水を見ると、飲み水や生活用水を思い起こします。

しかし魚にとってその池は、住

み家になります。また魚にとって水は私たちの空気のようなものであり、水なしでは生きることができません。

あるいは天人がその池の水を見れば瑠璃や水晶のような美しい寶石に見え、その上を歩くことができそうです。そして餓鬼がこの池や水をのぞき込むと炎の燃え盛る血の膿に見えるとか、水晶の池だと聞いて中に入ったつもりが血膿の溜りに落ちてもがき苦しむとか。こんな風に説かれています。立場によつては見え方がこんなに違うということです。

## どんな私？

仏教徒は悟りを求めるために八

つの実践すべき行いがあると知られています。そのひとつに正見<sup>1</sup>正しく見る、適切にしっかりと物を判断するという項目があります。「自身の本当の姿をありのままに見なさいよ」と教えられているのですが、それが中々できないのです。貴方はどんな人間ですか？と問われれば私はこう答えます。「私は、まあそこそこの善人です。大それた悪事を犯すなんて考えたこともございません。人に迷惑をかけないよう気を遣い我慢しながら慎ましく生活しています」と。ところが他人にはどう見えているのでしょうか？

親しい人は、「そんなに謙遜しなくてもいいよ。あなたは品行方正、謹厳実直の聖人君子だよ」と言っ

てくれるかもしれない。この人はすごく良い人です。こういう人のために頑張りたいと思います。

しかし意見のあわない、あの人から見ると「あああの人ね。慇懃無礼、厚顔無恥の自分勝手な男だよ」と言われるかもしれない。こういう人はだいたい変わり者で私の邪魔ばかりする困った人です。距離を置こうと思います。というわけで私という人間一人を見ても三者三様です。そして私も同様に好き嫌いで人を選別して付き合っています。誰が正しいというよりもみんな偏ったものの方を見方しているのだから偏見といえます。「正見」には程遠いのが私たちです。では偏りのない、ものごとを正しく見ることができる仏さま

に私はどんな人間ですかと尋ねたら何とお答えになるでしょうか？

### 経典に聞いてみよう

直接聞くことはできませんので、お釈迦様の説かれた教え、仏教、経典に尋ねるとよいでしょう。偏りのない正しさをもった教えに私という人間を判断してもらおうと【若さ・健康・生に執着して、真実に目を背け、逃げている者】とでも映るでしょう。

これを受けて「お釈迦さまが説かれた教えに間違いはございません。おっしゃる通りです」とうなずいて性根を入れ替えて仏道修行に励めば立派なものです。もっと簡単にいうと「お聴聞しましょう」

と薦められてお寺参りを始めれば最高ですが、どうでしょう。

仏さまの願いより救いより仰せより、自分の判断で何とか人生乗り越えていこうとお互いに甘く見積もっていませんか？老病死あるいは別離という人生のイベントは避けて通れません。いつか知らされる日が来るでしょう。悔やんで終わるも人生。感謝のうち息を引き取るも人生。まさに一水四見。良いことも悪いことも自分の見方。苦しみにすすむか喜びにすすむか。教えに耳を傾けましょう。ご法座は選ばれた人のためではなくみんなのためにあるのですから。どうぞお手次のお寺にお参りください。

七月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 七月七日(水)～十一日(日)  
休 座

○後期 七月十三日(火)～十六日(金)

北海道教区留萌組 西曉寺

講師 藤 法 順 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～  
午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。  
どうぞお誘い合わせ頂き、ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号  
本願寺小樽別院

電話 二二一〇七四番  
FAX 二九一四〇八番  
テレホン法話 二七一一六一番